

## 壁を打ち破ることの大切さ：レッテルに捉われてはいけないのはなぜか

(原文は英語)

早川 瑞希 (15 歳)

東京都

洗足学園高等学校

私はInstagramを開き、イスラエルとパレスチナの紛争についての投稿を見つけます。「パレスチナ側」あるいは「イスラエル側」のコメントをスクロールしていきます。イスラエルとパレスチナの紛争の本質に、本当の意味で言及しているコメントは一つもなく、解決策も見つかりません。テレビをつけると、ロー対ウェイド判決が覆ったことに対する賛成派・反対派の双方が映ります。左派メディアが妊娠中絶賛成派のみにインタビューを行う一方で、右派メディアは妊娠中絶反対派のみにインタビューしています。こうしたことから、私は、誰もが自分たち自身に貼ったレッテルのみに注目していることに気づきました。こうした状況はあまりにも自然なため、疑問を抱く人はいません。それにしても、私たち皆が特定のカテゴリーに属していなければならない、あるトピックについて賛成または反対をしなければならないのは、なぜでしょうか。相手側が何を主張しようとしているかを少しでも理解しようとしなければ、なぜでしょうか。これがまさに、私たちが平和を達成できない理由です。誰もお互いに理解しようとしなければなりません。

私たちの社会は、人々をカテゴリー分けすることに躍起になっています。なぜなら、カテゴリー分けすることで、自分たちがあたかもある特定の集団に属しているように感じられるからです。しかし、私たちが見過ごしているのは、こうしたカテゴリー分けには意味がなく、自分たちにレッテルを貼ることで、様々な意見を持った人たちが理解し合うのを阻む壁を作ってしまったということです。自分自身をあるカテゴリーに属する者と分類する時、私たちは相手側の主張を考慮しようとするこゝさえ自然に拒絶してしまいます。現在、米国では、ほとんどの人々が自分たちを民主党員か共和党員かにカテゴリー分けすることで、分断がかつてないほど大きな問題となっています。国際問題を解決するためには団結や協力が必要です。こうした分断は私たちの間の相互理解を阻んでおり、ひいてはこれらの社会問題の解決を自ら阻んでしまっているのです。

私はシンガポールに住む機会に恵まれてきました。人種的に世界で最も多様な国の一つであるシンガポールで、私は本当の意味での多様性を経験しました。「周りを見渡してみてください。これほど多様な肌の色や宗教を持った人たちがこの教室に集まっている。とても美しいことではありませんか」。毎年「カルチャーデー (文化の日)」があり、その日になると私たちは全員、それぞれ独自の文化について発表を行いました。皆が、自分自身の文化について誇りを感じられる日でした。私は以前にも増し

て日本人としての誇りを感じながら家路についたものです。お互いに異なっていることは、私たちにとって取るに足らないことでした。なぜなら、私たちは、社会が設定した、ある民族が優れていて他の民族はそうではないというような価値観を持っていなかったからです。政治に注目するようになり、ソーシャルメディアに触れるようになって初めて、人々がいかに分断されているかを認識しました。私が、行動を起こすべきなのは、未来を形づくることになる自分たち若者なのだ、と気づいたのはその時でした。

最後に私たちの間にある壁を打ち破るためには、社会による分類に捉われてはなりません。また、ある問題について、あらゆる視点から学ぼうとする努力が必要です。友人と私は、本当の意味であらゆる視点から物事を見るプラットフォームがほとんど無いことに気づきました。そこで、私たちは本当の意味で他者の意見を理解しようと努めていない事実を自覚するよう促すため、ウェブサイトやソーシャルメディアのアカウントを立ち上げようと計画してきました。そこで気づいたことは、若者たちは確かに社会問題について関心があるということ、そして私たちは相互理解が欠けているということです。そのため、お互いの立場について学ぶ機会が、社会問題を解決する上での鍵となります。相手の意見を知らなければ、その意見についての反論すらできないではありませんか。

現在の世界における社会問題の解決は不可能であるように思われるかもしれませんが。なぜなら誰も自分の意見を変えようとしなからずです。しかし、他者を説得しようと試みる前に、まず他者が信じているものをその人たちがどうして信じているのかを理解する必要があります。ある議論をしている双方が、実は最終的には同じ目標を目指していて、達成するための「方法」のみが異なる、ということすら多々あります。そのため私は、自分たちの間にある壁を打ち破り協力し合うことが、平和の道筋へと私たちを必ず導いてくれると強く信じています。